鳥類　＜チドリ目　シギ科＞　　愛知県：絶滅危惧ⅠB類（通過）　（国：絶滅危惧Ⅱ類）
AVES　＜CHARADRIIFORMES　SCOLOPACIDAE＞　　AICHI：EN（Pas）　（JAPAN：VU）

タカブシギ　*Tringa glareola* Linnaeus

【選定理由】

主に春と秋の渡りで、伊勢・三河湾の沿岸から内陸の平野部にある広い水田や水路、池沼の湿地などに飛来する。干潟に入ることはほとんど無く、淡水あるいは汽水の湿地にのみ生息する。

1974 年には西三河沿岸部で合計 450 羽以上、汐川河口の周辺では 1979 年 4 月に 375 羽、鍋田干拓では 1977 年 9 月に 91 羽の記録があるが、1980 年代半ば以降に個体数が激減した。近年の沿岸部では 1 群 10 羽を超える記録が無く、飛来さえ希になっている場所が大半であるが、現在でも転作のない沿岸部から離れた木曽川や矢作川の下流域では、希に 10 羽程度の飛来が見られることもある。

【形　態】

全長 19～21cm、翼開長 56～57cm。頭部および上面が暗褐色で白斑が散在する。眉斑は白く明瞭で眼の後方まで伸びる。夏羽は、顔、頸から胸側にかけての縦斑が明瞭だが、冬羽と幼羽では目立たない。脚は黄色く長い。飛翔時に腰と尾が白く見える。

愛知県岡崎市, 2019 年 9 月 29 日, 杉山時雄 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

春秋に、主に伊勢・三河湾沿岸部や平野部の水田や水路など淡水湿地に飛来する。数は少ないが、越冬することも希ではない。

【国内の分布】

春秋の渡り時期に北海道から沖縄まで飛来し、温暖な地域では越冬するものもいる。

【世界の分布】

ユーラシア大陸北部で繁殖し、ヨーロッパ南部、アフリカ、インド、東南アジア、オーストラリアで越冬する。

【生息地の環境／生態的特性】

主に春は 4 月中旬から 5 月中旬、秋は 7 月下旬から 10 月に、県内の平野部にある水田や水路、池沼などの淡水湿地に飛来するが、特に沿岸部の干拓地で数が多い。1～十数羽の小群で生息することが多く、生息数の多い頃はあちらこちらの水田でこうした群れが普通に見られた。

【現在の生息状況／減少の要因】

主な生息地として、木曽川流域、鍋田周辺、矢作川下流流域、一色干潟周辺、豊川下流や汐川干潟周辺などがあげられ、その他、県内平野部の水田や中小河川でも少数が見られる。1980 年代半ばまでは減反による休耕田が沿岸部の各地に存在しており、こうした淡水湿地が本種には絶好の生息地となっていたが、現在は休耕ではなく隔年で麦と大豆の畑になり生息環境が消失した。

【保全上の留意点】

愛知県では、干拓地や埋立地の遊休部分に、淡水や汽水の湿地環境を復元する努力が必要である。また、シギ・チドリ類が多く生息していた地域では、水田の一部を借り受けて休耕田とするか、水田の一部の転作作物を麦・大豆でなく飼料米等にすることで、毎年水田の環境が継続されるようにすることが必要である。また、水田の一部を冬期湛水することで、水棲生物や土壌生物の生息環境を保全することも大切である。

【特記事項】

シギ･チドリ類の全国調査における愛知県内でカウントされた本種の個体数は 1981～1983 年の春期が最大 947 羽～最小 697 羽、1996～1998 年の春期が最大 67 羽～最小 37 羽であったが、近年は県内全体でも 20 羽未満に減少している。

【関連文献】

真野　徹, 1984. 黒田長久編, 決定版 生物大図鑑 鳥類, p.132. 世界文化社, 東京.

（高橋伸夫）